

平成25年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1493200032	事業の開始年月日	平成18年5月1日
		指定年月日	平成18年5月1日
法人名	医療法人 愛生会		
事業所名	グループホームつどい		
所在地	(〒241-0806) 横浜市旭区下川井町2218-25		
サービス種別 定員等	小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
		通い定員	名
		宿泊定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		工外数	2工外
自己評価作成日	平成25年9月24日	評価結果 市町村受理日	平成26年2月7日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>年齢層の幅があり、視覚障害者も入居している為、全員が参加できるレクリエーションを工夫し、コミュニケーションの中で、入居者様同士がお互いを思いやり、支えあえるよう、また、協力・協調した生活を送ってゆけるように努力しています。</p> <p>地域での行事の参加や、ケアプラザ等の地域の方との交流を図っています。ホーム内でもダンスのボランティアが来訪され交流を含め、楽しみを持って頂けるようにし、日々の生活の中にも地域に馴染みのある環境作りに努めています。また、食事に畑の野菜を取り入れる事で、楽しみも持って頂いています。</p> <p>医療（歯科、マッサージ師、訪問医、訪問看護師）との連携を図り、1人ひとりに安心・安全・健康な生活を送れるようにしています。また、ご家族様、ご友人の方の面会も多く、通院等はご家族様に協力して頂けており、連絡・調整が良好に行なえています。</p> <p>防災面では、年4回の消防訓練及び救命訓練を実施しており、地域の方に訓練への参加を呼びかける等を行い、地域との連携に取り組んでおります。その活動が評価され、平成23年1月に消防署から感謝状も頂いています。</p>

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2-10 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成25年10月16日	評価機関 評価決定日	平成26年1月10日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>【事業所の概要】 この事業所は相鉄線三ツ境駅から10分程のバス停から徒歩5分の閑静で緑豊かな新興住宅街にある。建物は鉄骨造り2階建てで建物内部はエレベーターが設置されバリアフリーになっている。内部は自然の光をふんだんに採り入れ、風通しの良い構造になっている。庭も広く、木のテーブルとベンチが置かれ、隣接して100坪の広い畑がある。</p> <p>【畑（家庭菜園）作業がパワーの源】 事業所では畑作業に力を入れて取り組み、利用者のほぼ全員が参加している。畑での農作業は草むしりから始まり、収穫の喜び、旬の野菜を取り入れた食事、葉に頼らない質の良い睡眠、排泄など利用者のADLの維持のみならず向上に役立っている。畑作業中に地域の方と挨拶を交わし会話することによって馴染みの関係ができることにもつながっている。畑ではナス、トマト、カボチャをはじめ10種類以上の野菜を育てている。</p> <p>【次世代職員の育成と充実した事業所内研修】 「グループホームつどい」では介護技術だけではなく「心」を大切にしている。若い職員が多いが、常に「チェック制度」で先輩後輩の上下関係なくお互いに切磋琢磨している。レクリエーション、行事、介護技術、利用者に対する言葉遣いなどに関するお互いの提案が好意的に受けとめられる前向きな職場環境ができています。次世代職員の育成を意識し、外部研修だけでなく事業所内での研修を充実させている。利用者の権利擁護に関する制度の理解と活用に欠かせない「成年後見制度」について、現在利用者の後見人になっている司法書士を講師に家族、職員を対象に今秋研修を開催する予定である。</p> <p>【飽きさせないための工夫から生まれる利用者の自覚】 利用者を飽きさせないために、レクリエーションや行事を充実させている。畑作業以外にも、利用者に役割をもってもらうことにより、利用者自身が「この事業所に自分は必要だ！」と自覚している。</p>
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームつどい
ユニット名	みなみ

アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11,12)	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の申し送りにて理念を唱和し、日々の中で確認・共有しながら支援に繋げている。	理念は平成19年に作成したものが基本である。重要な言葉は『大家族的』である。管理者は、「原則としてはサービス業であり決して家族ではない、それでも家族的な思いやり、関係を持つようにしよう」と職員に話し、『大家族的』を実践できるよう努めている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への参加・ボランティアの来訪もあり、散歩、外気浴時には積極的に挨拶を励行する中で地域との交流が持っている。又、畑の草むしりや近隣の掃除を入居者様と共に行い、近隣の方から声を掛けて頂ける事が増えてきています。	町内会の盆踊りなどに参加している。近所の方と農作物のおすそ分けをし合ったり、町内会の運動会では利用者が参加しやすいプログラムを考えてくれたりと、地域住民とは良好な関係を築いている。地域ケアプラザ主催のセラピー犬とのふれあい行事に参加した。小学校の総合学習、中学校の職業体験を受け入れている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	イベント時に地域の方やボランティア様に参加して頂き、交流を図る事により、認知症の理解や、支援方法を伝えていくように働き掛けています。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中での意見を真摯に受け止め、より良いサービスを提供してゆけるように取り組んでいる。	現在は2か月に1度の割合で開催し、運営状況等の報告をしている。地域ケアプラザの提案で八幡神社の初詣、セラピー犬とのふれあい(わんわんスマイル)に行った。手作りおやつを試食してもらい、意見や感想をもらうこともある。議事録は会話形式の詳細な記録でわかりやすい。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	主に管理者が行っている。市町村担当者との連絡・連携がとれ、協力もあり良好な関係が築かれている。	区の地域振興課に依頼し、利用者と職員の共同作品「お神輿」を区役所に展示してもらっている。保護課にも、挨拶に行き顔なじみの関係を築けるよう努めている。運営推進会議議事録は行政に郵送している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠については基本的に行っていない。 また、言葉による拘束も行っておらず、職員間でもチェックし合い、連携もとれている。	フロア、玄関とも施錠していない。玄関はドアも開け放している。帰宅願望のある方は無理に止めず、さりげなくついて行く。職員は常に利用者の様子に気を配っている。これまでに不意の外出や事故はない。「チェック制度」により言葉による拘束には特に注意している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修の参加や報告を通じ、学べる機会や、虐待に繋がらないように注意を払い、支援を行っている。 入居者様個々の尊厳を重視している為、虐待はない。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全体会議において、管理者より説明があり、学び、理解している。又、施設内研修を行う予定である。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居・退去時の他、家族会や契約変更時等に管理者から説明を行い理解・納得を得られている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。他、定期的に家族会を開催し意見交換を行い、面会時等も意見・要望を話せる機会を持てるようにし、ケアプランやホームの運営に反映させている。	家族会は5月創立記念日、8月夏祭り、12月忘年会のイベントに合わせて年3回開催する。議事録は会話形式で詳細であり、すべての家族に郵送する。なかなか面会に来てもらえない家族には積極的に声かけする。退去した家族からも率直に意見をもらえる関係を築いている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体会議や、フロア会議を通じ、意見や提案を話せる機会があるほか、日常的に職員の意見等を聞く機会を持てるようにし、反映している。	全体会議やフロア会議にはパート職員や事務員も含めて全職員が参加し、意見を出せる機会を確保している。会議以外でも日頃からお互いのケアサービス向上のため、意見を出し合っている。管理者にも職員が意見する職場環境である。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員個々の実績や勤務状況を把握しており、各自が向上心を持って働けるように、管理者と共に職場環境・整備に努めている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が受けた研修内容は、全体会議に必ずフィードバックし職員全体が把握できるようにしている。又、施設内でも、テーマに沿って、研修を行っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	研修や勉強会に参加できる機会があり、サービスの質の向上に向け取り組んでいる。また、管理者は常に同業者との交流を図り、情報交換を行い、施設運営に生かしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションを取りながら、ご本人の望む事、思い等、情報収集しながら安心・信頼して生活してゆけるよう努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の思い、要望等を受け止め、かつ、相談しながら信頼の持てる関係作りに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の情報も含め、今、必要としているサービスを提案し、ご本人とご家族との確認・相談をしながら支援に繋げている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念の中にもある、「大家族的な中で」という思いで、日々の生活の中で持ちつ持たれつ、の関係を築いている。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	主に管理者がご家族との連絡を密にとりながら、通院への対応を行なっている。又、イベント、外出などはご家族も参加し、一緒に本人を支えている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>馴染みの方へ手紙をだしたり、外出をしたり、また、面会で来訪されたりなど、今までご本人が大切にしてきた場所や人との関係を継続してゆけるように努めている。</p>	<p>友人、知人、仲人した方、宗教関係の方などの来訪がある。礼拝への外出は、家族と連携ながら支援している。来訪者にはお茶とおやつを出してもてなす。利用者にとって、ここが馴染みの土地になるよう支援している。日々の畑作業中に近隣住民と交わす挨拶や会話などを大切にし、顔なじみとなっている。また横浜市の住民であることを意識してもらえよう、横浜市歌を歌っている。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>日々の生活の中で、入居者同士の関係性をみながら、お互いに支え合い、助け合い生活してゆけるよう職員も介入しながら関わりの持てる支援に努めている。</p>		
22		<p>関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>特養などに入所した場合でも、管理者が面会に行くなど、支援をしている。 また、亡くなられた入居者ご家族とも交流があり、相談などで来訪される。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活の中で、一人ひとりの思いや意向を把握できるように努め、援助に活かすようにしている。	思いやりが基本であることを職員に徹底している。リクリエーション時や草取り、入浴の際などに意向を聞いている。把握が困難な方には家族の話を聞き、職員が利用者の思いを推測して対応している。フロア会議で情報の共有を図っている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	過去の状況に関しては、不鮮明な方もいるが、ご本人・ご家族様からの情報も得ながら、把握できるよう努めている。入居者様との信頼関係が築けており、ご本人様からお話して頂ける事も多い。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で、一人ひとりの状況、状態、出来る事を入居者との関わりの中で把握してゆけるように努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のケアカンファレンスにて、本人の意向や家族の意向、医療関係者との連携・意見も含め、作成し、評価している。	居室担当制を取っている。カンファレンスでは、ケース記録をもとに、家族、職員、医師などが課題を出し合い作成している。通常は短期目標3ヶ月、長期目標6ヶ月毎、状態変化のあった時は随時、見直ししている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に実践、結果内容を記録し、日中、夜間共に気づきや工夫すべき所をペンの色を替え記入している。また、スタッフノートでの情報の共有をしながら介護計画に活かしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じ、柔軟な支援やサービスが行えるように取り組んでいる。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域（町内会やケアプラザ、近隣の小中学校など）との交流、行事などへの参加もあり、楽しみを持つ事が出来るよう、安全で豊かな生活を送れるよう支援している。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1度、訪問医が往診に来ている。また、かかりつけの病院がある際は希望を考慮し、適切な医療が受けられるようにしている。又、数名の方は、2週間に1度、精神科の往診も受けている。	専門医の受診は1名である。家族にホームでの日常の様子記録を渡して、受診時の情報共有をしている。4月から法人の医院長が担当になり、訪問医として月2回、それ以外でも必要に応じて随時訪問している。下剤や睡眠薬に頼らない方針である。訪問歯科医との関係は良く協力的で、口腔ケアを重視している。	
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、訪問看護あり。その際、入居者の状態を報告・相談・確認している、また、看護師へは24時間体制で、状態の変化の際、連絡・相談する事が出来る。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	主に管理者が医療機関との関係作りを行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	管理者より、家族への説明、話し合いを行っている。当ホームではターミナルケアは行っていないが、ターミナルケアについての施設内研修を行っている。	昨年の外部評価の前、平成24年4月にはすでに独自のマニュアルを作成していた。職員がケアする視点での詳細なマニュアルである。基本はターミナルを行わない方針だが、今後の備えとして、6月に研修を行った。昨年の目標達成計画は達成された。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変・事故発生時は看護師・医師への連絡・指示を受けられる体制はあり。また、年に4回、消防署との連携を図り防災訓練・救命訓練を実施。実践力を身に付けられるよう訓練している。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署との連携を図り、定期的に避難訓練をしており、夜間想定避難訓練も実施。地域への呼びかけも行っている。	ホームの防災訓練は、防火管理者3名が近所を一件ずつまわってお知らせを渡し、参加をお願いしている。前回は3名位の参加があった。東日本大震災の時には、利用者が落ち着いた後、近隣をまわり、安否を確認しに行った。災害時に炊き出しが直ぐできるよう火の起こし方から訓練している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフ同士、言葉遣いや声かけの対応には十分に注意し合いながら、尊厳やプライバシーを損ねないように努力している。	ひとり、ひとりの人間の尊厳を守り、その人らしさを大切に、思いやりを持ちながらも、なれなれしくならないよう言葉づかいや対応には注意している。ケアプランや家族とのやりとりなどの個人情報のある記録類は事務所の鍵付き書庫で保管している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の気持ちを大切にし、思いや希望を表して頂き、自己決定が出来る環境を持てるよう努力している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	少しずつではあるが一人一人のペースを大事に出来ているが、さらに、日々の楽しさや過ごし方を考えて支援を努力してゆく必要がある		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望者には日常にお化粧をして頂き、身だしなみに気を遣っている。又、行事の際などは、服装など、入居者様自身が意識を持ち、おしゃれを楽しんでもらえるようになっている。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者との協力の中で、準備や食事、片付けをしている。又、行事での食事を、入居者の意見や好みを取り入れ、楽しみの持てるように努めている。	食材は宅配を利用し、調理は専門の職員が行っている。訪問日はお刺身だった。収穫した野菜は普段食べているものを知ってもらうため、家族会で配る。おやつは職員の手作りである。行事の時は職員がメニューを考えて材料を発注する。運動会では利用者の会話から希望などを聞き取り、お弁当を作っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師と連携しながら、健康状態、身体状況などを確認しながら食事量の調整やカロリー、栄養のバランスにも配慮している。水分量にはバラつきがある方もいる為、声掛けを行いながら飲んで頂いている。又、夏季期間中は熱中症予防として夜間の水分摂取を行っている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアは実施し、口腔状態の把握に努めている。また、定期的に歯科診療あり、歯科医からの指導、助言を頂き、口腔内の清潔保持に努めている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを確認しながら以前より失敗が少なくなった方もいる。継続して、個々に合った排泄の支援を行っている。	健康チェック表（水分、食事、更衣、入浴、排泄の一覧表A3）でパターンを読んで誘導する。基本はトイレでの排泄を支援している。パッド使用の方は数名、夜間のみオムツの方は3名で睡眠を重視する。排泄時の音、量、色で健康状態を注意している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の声かけ、レクの中に運動を取り入れたり、個々でのリハビリを促し実施したり、と個々に応じた予防に取り組んでいる。又、青汁、ヨーグルトの他、畑の野菜を取り入れる事により、下剤を服用せず、自然排便につながるよう、工夫している。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入居者のニーズに合わせ、午前中に行なったり、シャワー浴にしたりと工夫もしている。又、本人から入浴したいと訴えがあれば、入れる状態になっている。	ほとんどの方は1週間に2回で、以前は嫌いだった方も今は好きになった。職員は1対1で対応している。2~3名の自立している方は職員が脱衣所で待機し、安否確認している。農作業の後などは足湯やシャワー浴に頻繁に入る。訪問日はみかん湯だった。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣を大事にし、状況に応じて休息はとって頂いている。基本的には日中活動的に過ごして頂けるようにし、夜間の安眠に繋げてゆけるよう努力している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬支援は出来ている。症状の変化については日々の観察の中で確認しながら、医療との連携を図っている。不明な点は薬剤師に確認するなど、理解に努める様にしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の出来る事、役割を見出しながら支援している。楽しみごとの支援は状況に合わせ、工夫しながら提供できるよう努力している。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日光浴や散歩の他、畑での草むしり、収穫を楽しんで頂き、日常的な中での外出支援を行っている。行事の際には、普段いけない場所への外出も提案し、支援している。本人の希望によりご家族様の協力も得られている。	月1回、徒歩20～30分のところにある喫茶店へ行っている。他に、長屋門公園、特別養護老人ホームなどへも出かけている。鯉のぼり見学、みかん狩りなどへボランティアと職員の運転で出かける。農家の方に誘われ柿狩りに出かけた。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	地域のイベント時に、自分の欲しい物を選んで頂き、ご自分で会計をして頂き、商品を受け取って頂いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々の状態・状況を把握した上で、希望される方には手紙のやり取りが行えるよう支援している。また、別ユニットの入居者との手紙のやり取りも行えるようにしている。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔を保ち、気候に合わせて空調管理、季節感を感じられる、装飾を取り入れたりし、居心地良く過ごせる環境作りに努めている。	玄関を開けっ放しにしていることをはじめ、換気には気をつけている。階段を使ってリハビリできるように壁に1月～12月のイベントの写真が貼ってある。庭には木のテーブルとイスが置かれている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内の席以外にもソファが置かれており、くつろいで会話をしたり出来る環境作りをしている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の希望に添い、人形・花・写真等を飾られたり、使い慣れた物を置かれたりされている。又、仏壇も置き、花の水遣りを毎日行っている。	各居室のドアは中央に色別のラインが入っている。表札は小枝や木片、麻ひもを使って手作りされている。居室内には、ぬいぐるみや位牌、千代紙作品、松ぼっくりなどが飾られていた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	障害物となった物をすぐに排除するのではなく、入居者様の状態に合わせ、必要時に動かすようにしている。又、身体能力を低下させない為に、階段を使用して頂けるように努めている。		

事業所名	グループホームつどい
ユニット名	あさひ

アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11,12)	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念があり、毎朝、申し送り時に、出勤スタッフで唱和している。会議や日常の業務の中でも、管理者やリーダーから意義を職員に伝え、周知に努め、支援につなげている。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ケアプラザなどの地域の行事への参加や、ホームの行事の際は、近隣住民にも参加の呼び掛けを行っており、夏祭りにはたくさんの方が参加して下さっている。又、散歩、掃除、畑仕事等の際に挨拶を行っている為、顔見知りの方も増えてきている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティア様来訪時や、イベント時に地域の方にも参加して頂いた際に交流を図る事により、認知症の理解や、支援方法を伝えられるように働きかけている。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1度、運営推進委員会を開催し、サービスの提供状況、ホームの取り組み等を報告している。又、参加者からの意見を検討し、サービスに活かしている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	主に管理者が、連携を密にとり、協力関係を築いていけるよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者、職員共に、ホーム内外での研修への参加や、日常での指導等により、身体拘束について理解し、玄関の開錠も行っている。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修への参加や、日常での指導等により理解を深め、職員間でも意識を持って、虐待防止に努めている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者の指示、指導の下、各職員が理解し、支援を行っている。又、施設内でも研修を行う予定です。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	主に管理者が、契約時や退去時、又は家族会の際などに十分に説明し、理解、納得して頂いている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置すると共に、日頃から入居者様やご家族とコミュニケーションをとり、又、家族会などでも意見を伺い、検討をし、運営に反映させている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議で、職員の意見を聞いている。又、管理者やリーダーが普段から職員とコミュニケーションをよくとり、意見等を聞いている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、月に2回来られ、職員の努力、実績、勤務状況などを把握し、管理者が職員とコミュニケーションをとり、代表者につなげていく事で、やりがいを持ち、向上心もてるよう、職場環境、条件の整備に努めている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、職員の力量を把握し代表者につなげ、各職員に合った指導や研修への参加の機会を設けている。又、施設内でも研修を行っている。 研修報告を全体会議で行い、職員全体に周知し、働きながら学んでいけるように努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	研修生の受け入れや、他施設との交流を図っており、イベント等に参加させて頂きながら、情報交換をおこなっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者により、事前に本人の情報収集が行われ、それを元に職員は不安のないような関係作りに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	主に管理者により、事前にご家族様からの情報収集が行われ、それを元に、職員は不安のないような関係作りに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	主に管理者が、ご本人、ご家族様と良く話し合い、適切な支援を見極め、対応している。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、洗濯、調理、畑仕事等、本人の能力に合わせ、スタッフと共に行い、必要なところは援助し、「大家族的」な関係作りに努めている。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様来訪時、要望等を伺い、援助につなげている。関わりの少ないご家族様には、広報誌をお送りし、イベント等への参加の呼び掛けも行い、関係が切れてしまわないよう、配慮している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前から情報収集に努め、友人等との面会や手紙のやり取り等の継続を支援している。又、教会等のなじみの場所への外出も、ご家族様と連携し行って頂いている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション、余暇時間等を活用し、入居者様同士の交流の場を提供している。又、時により職員が介入し、円滑なコミュニケーションがとれるよう、支援している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去先への訪問を行っており、退去後もご家族様が相談に来やすい環境作りを心がけている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個々の希望、意向を重視し、可能な限り実現できるように努力している。必要時は関係者を集め、カンファレンスを行い、本人本位に検討している。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご本人、ご家族様に確認し、入居後もコミュニケーションをとりながら、情報収集に努めている。必要時には、以前に利用したサービスの担当者からも情報収集を行っている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃から入居者様の様子観察に努め記録している。又、ケースカンファレンスの際に状況の確認をしている。変化に気付いた際は、申し送りや、スタッフノート等で周知している。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族、医師、介護士など、関係者と意見交換を行い、プラン会議で担当者がスタッフと検討することで、関係者の意見を反映したケアプランを作成している。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	午前、午後、夜間帯の様子を記録し、ケアプランに繋がると思われる事項は、日中帯、夜間帯との色分けをして記入している。その記録を読む事で情報を共有し、ケアプラン等に活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族様から情報収集し、出来る限りニーズに応えられるように、通院、外出、買い物等の援助をご家族様等と連携し、行っている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ケアプラザや地域のイベントなどへの参加、消防署と連携しての訓練、地域の小学生のジュニアボランティア、中学生による職業体験受け入れ等、地域資源の活用に努めている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	管理者、職員が、ご本人様、ご家族様、訪問医とコミュニケーションを持ち、適切な治療を受けられている。歯科も往診にて、定期的に治療を行っている。数名の方は、精神科の往診も受けている。		
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日、前日の入居者様の状態をFAXにて報告を行っている。又、週に1回訪問され、見て頂いている。必要時には24時間体制で連携をとり、対応している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主に法人内の医療機関と普段からコミュニケーションをとり、入院時に安心して治療を受け、早期退院出来る様に情報交換、相談を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>契約時などに充分説明し、理解して頂いている。又、関係者と情報を共有し、チームで方針に沿った対応が出来る様に努めている。又、ターミナルケアは、行っていないが、希望にそった対応ができる様に研修を行い、備えている。</p>		
34		<p>急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>定期的に消防署の指導による救命訓練を行い、又、マニュアルも作成しており、緊急時に対応できるように備えている。</p>		
35	13	<p>災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>定期的に消防署の指導による防災訓練を行い、又、マニュアルも作成しており、緊急時に対応できるように備えている。地域住民も参加しての夜間想定 of 防災訓練も実施しており、運営推進委員会などで、地域への協力の呼び掛けも行っている。</p>		

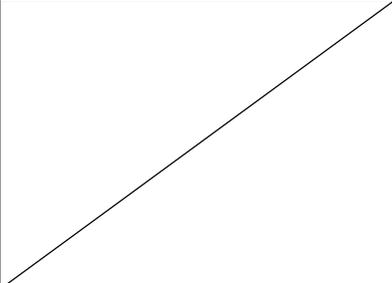
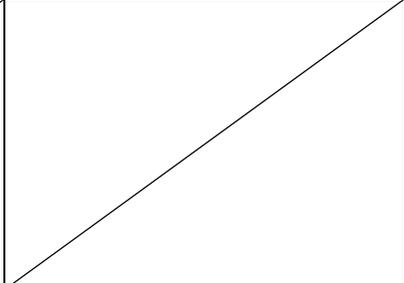
自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	管理者、リーダーからの指導、会議などでの確認により、個人を尊重しての声かけ、対応を心がけている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段のコミュニケーションから入居者様のニーズを引き出せるよう努め、可能な限り自己決定できるよう、働きかけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを把握し、出来る限り希望に添った一日が過ごせるように支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、整容と希望者にはお化粧品を行って頂いている。それにより普段と違う気持ちになり、入居者様自身も服装に気を使ったり、身だしなみに気を配ったりと、おしゃれを楽しんでもらっている。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の力に合わせ、準備、片付け等一緒に行っている。畑の野菜も取り入れ、楽しみや満足感を得られるよう努めている。カロリーや塩分も医療と連携し個人の好みに出来るだけ合わせられるよう、努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>水分は1日1500ccを目安になるべく日中帯で摂取してもらっている。又、各自の食事量を把握し、本人の状態に合わせて、なるべく普通食に近い形での食事摂取を支援している。畑の野菜も活かし、必要な栄養が十分に摂取出来る様に支援している。夏季期間中は熱中症予防として夜間の水分摂取を行っている。</p>		
42		<p>口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後、出来る限り自力で口腔ケアを行ってもらい、職員が歯間ブラシなども使用し、仕上げを行っている。週1回薬剤を使用し、義歯洗浄を行い、定期的に歯科受診している。</p>		
43	16	<p>排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>一人ひとりに合わせた、トイレの声かけを行い、下剤の調整を行うことで、トイレの失敗がないように努めている。</p>		
44		<p>便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>適正な便秘薬の使用量を医療と連携し調整している。水分の確保、食物繊維の摂取、咀嚼の促し、運動（散歩、草むしり、毎日の体操、リハビリ）などにより便秘解消に努めている。又、青汁やヨーグルト、畑の野菜を豊富に取り入れる事により、下剤を服用せず、自然排便につながるよう努めています。</p>		

45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	いつでも入浴のできる状況にしており、1人1人の体力や、精神状態に合わせ、週2回を目安に入浴していただいている。希望により、みかんの皮、お茶ガラなど入居様が乾かし、入浴剤として使用され、楽しまれている。		
----	----	---	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、活動的に過ごしてもらい、夜間の安眠に繋げている。医療と連携し、睡眠導入剤を現在は使用しなくなっており、夜間の安全も確保するよう努めている。日中様子観察を良く行い、必要時には居室で休息してもらっている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様の薬について職員は勉強し、時折確認の為にテストを行っている。薬の変更時等は、診療表や連絡ノートで周知し、変更時等は、特に様子観察を強化している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	午前、午後のレク、その他掃除、洗濯、調理、畑仕事、縫い物など、それぞれが役割や楽しみを持ってもらっている。又、イベント時などに飲酒もしていただいている。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の気候や希望により散歩や畑仕事に行っている。又、ケアプラザや地域のイベントに参加したり、ご家族様との外出やホームでの外出を楽しんでもらったりしている。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出先での買い物時には積極的にお金のやり取りをして頂き、ご自分でお金を支払い、商品を受け取る等、お金を扱う能力が落ちないように、働きかけている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話を使用してもらっている。一部の入居者様は、携帯電話を所持してられる。手紙も希望があれば、出してもらっている。どちらも依存が強くなったり、相手先に負担になったりしないよう、頻度などを確認している。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブルに季節の花などを飾り、音楽などをかけ、落ち着いて過ごせるよう、努めている。壁などに季節感を取り入れた装飾を行っている。まめに清掃、換気を行い、不快なことはない様努めている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを置き、TVなどを見ながら、入居者様同士、会話が出来るよう工夫している。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた物やタンスなどを置いている。又、毎日清掃を行い、定期的に職員と整理を行っている。		

55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>障害物を全て排除するのではなく、入居者に合わせ、必要時に動かしている。又、階段もなるべく使用するようにし、能力が低下しないように努めている。居室や、トイレ等解りやすい様に表示を行い、入居者に認識してもらいやすい様に工夫している。</p>		
----	--	--	---	---	---

